

業種・食品種類	水産加工	売上規模	10～30億円未満
効率化工程	生産工程		
効率化	前工程, 後工程, 機械・ロボット		

水産食料品製造業

愛媛県

親会社である大手水産商社の支援を受け、自動化を推進。処理量の増加や人員削減など生産性向上に効果

■ 従業員の状況

従業員数		従業員の部門別構成比		
正社員・契約社員	パート・アルバイト	製造部門	間接部門	その他
13名	14名	93.0%	7.0%	-

■ 生産関連の状況

生産量／稼働時間	生産量	工場稼働時間
	非公表	8時間／日

コスト構造 構成比	原材料費	人件費	減価償却費	その他
	55%	15%	7%	23%

製造工程における 設備・機械対応比率	製造工程 [原材料投入から製品完成まで]		設備・機械対応比率
	うち、設備・機械対応		
	8	5	62.5%

設備・機械担当人数	設備・機械担当者計 [メンテを含む]	設備・機械メンテ 担当者	機械・設備導入・ 整備選任	その他
				担当
現状	3 人	3 人	- 人	- 人
5年前	2 人	2 人	- 人	- 人

！生産性向上におけるPoint

- ✓ 親会社である大手水産商社の資金提供を受け、自動化に着手。処理量の増加と人員削減を実現
- ✓ 資金面以外にもサポートを受けたことで、間接部門の人員削減や販売機会の拡大にも効果

大手水産商社の子会社となり自動化に着手、効率化と省人化を図る

養殖魚の加工業者である同社は、主に鯛の切り身や加工食品を製造し、チルドや冷凍状態で出荷している。設立当初は不安定な経営状態から自動化が進まず、作業の大半を人手に頼っていたが、2022年に地元の大手水産商社の子会社となったことを機に、自動化に着手し、効率化と省人化を図った。

大型機械や冷凍設備の導入を進め、処理量の増加と人員削減を実現

親会社の資金提供を受け、大型の三枚下ろし機や魚の頭部を切断するヘッドカッターを新規導入し、皮剥機や真空包装機を大型の機種に更新した。従来は魚介類の洗浄に用いる電解水を手作りしていたが、電解水生成装置を導入し効率化を図った。さらに、補助金を活用しアルコール凍結器や急速冷凍機、冷凍コンテナを導入したことで、魚の冷凍保存が可能となった。

自動化以前の処理量は最大で500匹/日程度だったが、現在は1,500~2,000匹/日と大幅に増加。人員は27~28人から25人まで削減した。今後の収益次第では、さらなる自動化も可能と考えている。

親会社のサポートにより、間接部門の人員削減や販売機会の拡大にも効果

親会社が経理関係を管理するようになったことで、従来4人であった間接部門の人員を1~2人削減した。また、これまで販売に苦慮していたが、親会社のサポートで販売先が増加し、工場の稼働率向上につながった。